

伊豆の国市立長岡南小学校 学校だより



あやめだより

令和5年6月号

同調圧力と集団の力

校長 牧野 宏之

「令和の日本型学校教育の構築を目指して」（中央教育審議会 答申）では、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を目指し、「同調圧力」からの脱却が強調されています。

これは、従来の日本社会や教育の「足並みをそろえる」「人と同じでなきゃいけない」を重視しすぎた反省からでもあります。

同調圧力とは、『みんなと同じことを同じように』が過度に求められることです。学校生活では、集団で行動する場面が多く、『みんなと同じ』を求められる場面が多々あります。「みんなが頑張るから自分も頑張ろう」「みんなと一緒にだから頑張れる」「みんなと協力して取り組むと楽しい」「一人ではできないこともみんなと一緒にならできる」といった成果も挙げています。そして、集団の中で友達との関わりをとおして一体感や連帯感、所属感を感じています。

しかし、過度な同調圧力は生きづらさにつながったり、意欲を失ったり、子どもにとって安心安全が脅かされることにもなります。

学校では、「個別の学び」と「協働的な学び」であったり、「個々の課題への追究」と「友達とのやりとりや集団での追究」であったり、子どもにとって何が良いのかを考え、バランスのとれた教育を行っていきたいと考えています。

